



2021/12/10

NO. 96

科学の森ニュース

The University of Tokyo Forests News

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

Contents

- ・ 森の文化祭…1
- ・ オンライン実習の現状と課題…3
- ・ オンサイトで公開講座…2
- ・ 四コマ漫画：死体がほしい…3
- ・ 森林管理技術賞を受賞…2
- ・ 動植物紹介：イズセンリョウ…4
- ・ 癒しの森でリフレッシュ実習…2
- ・ 麓郷の森林資料館…4

富士癒しの森研究所で「森の文化祭」を開催

富士癒しの森研究所

10月31日、富士癒しの森研究所（以下、研究所）の講義室とその周辺の林内を会場として、山中湖村教育委員会の後援のもと、「森の文化祭」が開催されました。これは、森林と親しむ文化を創ることに取り組む研究所による研究の一環でもあります。周辺住民有志の「癒しの森の会」の皆さんと協働して、企画と準備が進められました。

紅葉が盛りの秋晴れを期待しましたが、当日は残念ながら雨模様。それでも、150名ほどの方が来場してくれました。講義室から張り出したオープンテラスでは、地域で活動する音楽家や、地元高校生による音楽演奏が行われました。すっかり色づいた森の中で、色とりどりの傘が演奏のリズムに合わせて揺れる様子が印象的でした。講義室内では、地元住民による絵画や写真、書道などの作品が展示され、作者と来場者が交流する様子が見られました。

森の中で文化祭をするという初めての試みでしたが、多くの賛辞が寄せられ、今後、地域の行事として定着しそうな予感が得られました。



紅葉が盛りを迎えた森の中で開催された「森の文化祭」

白鳥山ガイドツアーをオンサイトで開催

北海道演習林

北海道演習林では、コロナ禍のためオンサイト（対面）での公開講座の開催を見合わせてきましたが、10月19日に約2年ぶりに公開講座「麓郷の小さな森で秋探し」をオンサイトで開催しました。開催当日、北海道の緊急事態宣言は解除されていましたが、「密にならない」を念頭に置いて、北海道演習林で作成した新型コロナウイルス対応ガイドラインに従って参加者の健康チェックを行った後、参加者を5名ずつ2班に分けて、森林資料館見学と白鳥山散策を交互にご案内しました。森林資料館では、丸太や円板の標本を使って樹種による木目の違いを観察したり、演習林の景観を俯瞰できるジオラマを見ながら富良野地方の自然を紹介しました。白鳥山では、紅葉の下を散策しながら身近な場所での季節の移り変わりを感じてもらいました。

参加者の方から「見慣れている景色も演習林職員の方の説明を聞きながら見ると新しい発見があって楽しかったです」と声を掛けていただきました。



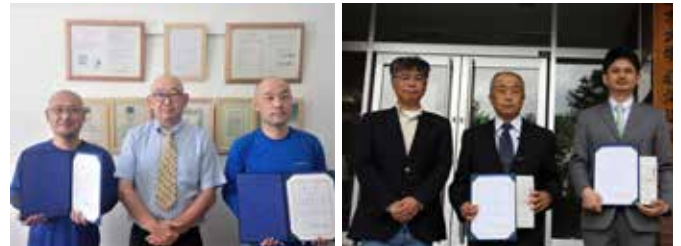
「白鳥山」散策

技術職員4名が森林管理技術賞を受賞

企画部

9月21日に開催された全国大学演習林協議会秋季総会において、第23回森林管理技術賞の授賞式がありました。本学からは北海道演習林の井口和信さんが北海道演習林における天然林施業の管理・運営・研究への多大な貢献により「特別功労賞」、千葉演習林の塚越剛史さんが東京大学千

葉演習林における林道施設の災害復旧と安全確保への技術的貢献により「技術貢献賞」、同じく千葉演習林の三次充和さんが千葉県外房地域における水生生物の分布と生態に関する学術的貢献により「学術貢献賞」、北海道演習林の及川希さんが林道路網維持管理から哺乳類調査、写真による演習林のPR活動まで多岐にわたる技術貢献により「若手奨励賞」を受賞しました。昨年と同様にオンラインにより挙行され、所属の地方演習林長から賞状が授与されました。



左から、塚越氏、鎌田千葉演習林長、三次氏、尾張北海道演習林長、井口氏、及川氏

医学系の教員とコラボした教育プログラム

富士癒しの森研究所

今年度、富士癒しの森研究所では新たな教育活動に挑戦しました。本学の附属病院、産業医、音楽療法士の教員とともに、教養学部前期課程の科目として、全学体験ゼミナール「東大の別荘『癒しの森』で心も体もリフレッシュ」を開講しました。この科目では、医学系の教員によるメンタルヘルスや心身のセルフケアに関する事前講義を受けたあと、環境によってもたらされる自己の変化を知り、自分に合ったリフレッシュ方法を探すための現地実習を行いました。コロナ対策のため、現地実習は全て日帰り日程となりましたが、受講生は自然に触れて実にいきいきとし、個性あふれるリフレッシュ方法を探求していました。



富士癒しの森研究所でのリフレッシュ体験を披露する受講生

クローズアップ

演習林におけるオンライン実習の現状と課題

大学教育委員会

2020年度、大学ではコロナ禍でも教育活動が続けるために、学生が自宅等でインターネットを介して講義を受けることができる「オンライン講義」が実施されました。必修科目の中には座学である講義だけでなく実習の科目も含まれており、「オンライン」での「実習」も実施する必要がありました。演習林はこれまでも実習のフィールドとして活用されてきた経緯から、2020年度は学部実習で10件、教養学部の体験ゼミ等で8件、2021年度もすでに多くのオンライン実習を開催・受け入れています。

具体的な内容として、演習林の野外でカメラを繋いで森林の様子や林業機械をリアルタイムに映して説明をするといった実習が行われました。現地からの中継でのカメラワーク、教員や技術職員が現場で行うやり取りなどは日々進化しており、ドローンや360度カメラなどを用いた新しい映像の取り組みとともに、遠隔講義に関するこれまでの経験、周到な準備や様々な試行錯誤が今のオンライン実習を支えているといえます。しかし、演習林によって状況は異なるものの、野外では必ずしもネットワーク環境が整備されていないことから、野外からのリアルタイム中継を充実させるためにはネットワーク環境の一層の整備が望まれます。一方、オンラインでは、たくさんの学生が視聴してくれていることは分かるものの、学生の反応が分かりにくいという側面があります。実習に不可欠な双方向のやり取りをいかに充実させるかも課題の一つといえそうです。

オンライン実習を実施する過程で、様々なビデオ教材も制作されました。オンライン実習で培われた技術やコンテンツは、学生に演習林へ来てもらうためのきっかけ作りや事前学習のみならず、オンライン時代に森林や演習林が社会と広く繋がるための有効な手段となることが期待できそうです。しかし、演習林とし

ては、やはり現地でより深い学びをしていただくとともに、実習を通じて学生同士、あるいは現地における学生と教員・技術職員との交流をしてほしいと思っています。実習に来てくれた学生の皆さんの笑顔を見られる日が一日も早く来るように願っています。

演習林のおしごと

作：技術職員 Y 010



※カモシカの死体を見つけたら最初に自治体に連絡しましょう(天然記念物滅失の届け出が必要)

イズセンリョウ

サクラソウ科イズセンリョウ属 学名：*Maesa japonica*

千葉演習林

千葉演習林の林内を歩いていると、よく目にするのがイズセンリョウです。常緑の低木で樹高は1m程度、やぶ状の樹形をして林床を覆っています。千葉演習林ではニホンジカの食害によって林床植物が減少していますが、イズセンリョウはシカが嫌いな“不嗜好性植物”のため食べられずに多数生育しています。葉は葉脈がくっきりしていて、葉の縁にわずかに鋸歯が見られるのが特徴です。花は黄白色で小さな筒状をしており、晩秋になると乳白色に熟した果実が付きます。とても地味な植物ですが千葉演習林の植生を語るうえでは欠かせない存在です。



名所・名物案内

森林資料館

北海道演習林

森林資料館はドラマの舞台としても有名になった富良野市麓郷にあります。ここでは北海道演習林創設から約20年後、今からちょうど100年前の1921(大正10)年に森林管理の拠点として職員が勤務する「布部作業所」が設置された場所です。1927(昭和2)年の改築の際に名称が「麓郷作業所」と改められ、約40年前の1982(昭和57)年に山部作業所と統合されるまで作業所としての役割を果たしました。現在の建物は1999(平成11)年に森林資料館として新たな歩み始めるため、建設当時の面影を壊さないように再建設されました。長い梁はそのまま使用され、外壁も当時の色が再現されています。



そんな趣ある森林資料館には、北海道演習林内に自生している針葉樹4種と広葉樹34種の計38種、北海道と気候が類似した北米・北欧諸国等から導入されて植栽されている外来樹種14種の最大級の太さを誇る丸太がそのままダイナミックに展示されています。直径が80cmもある大きな丸太や年輪が300年近くある標本(円板)からは、樹木の大きさと寿命の長さを窺い知ることができ、富良野の森の豊かさ、深さを感じることできる場所です。



4月から11月の平日に一般公開していますので富良野にお越しの際はぜひお立ち寄りください。